

# 平成28年度 再評価

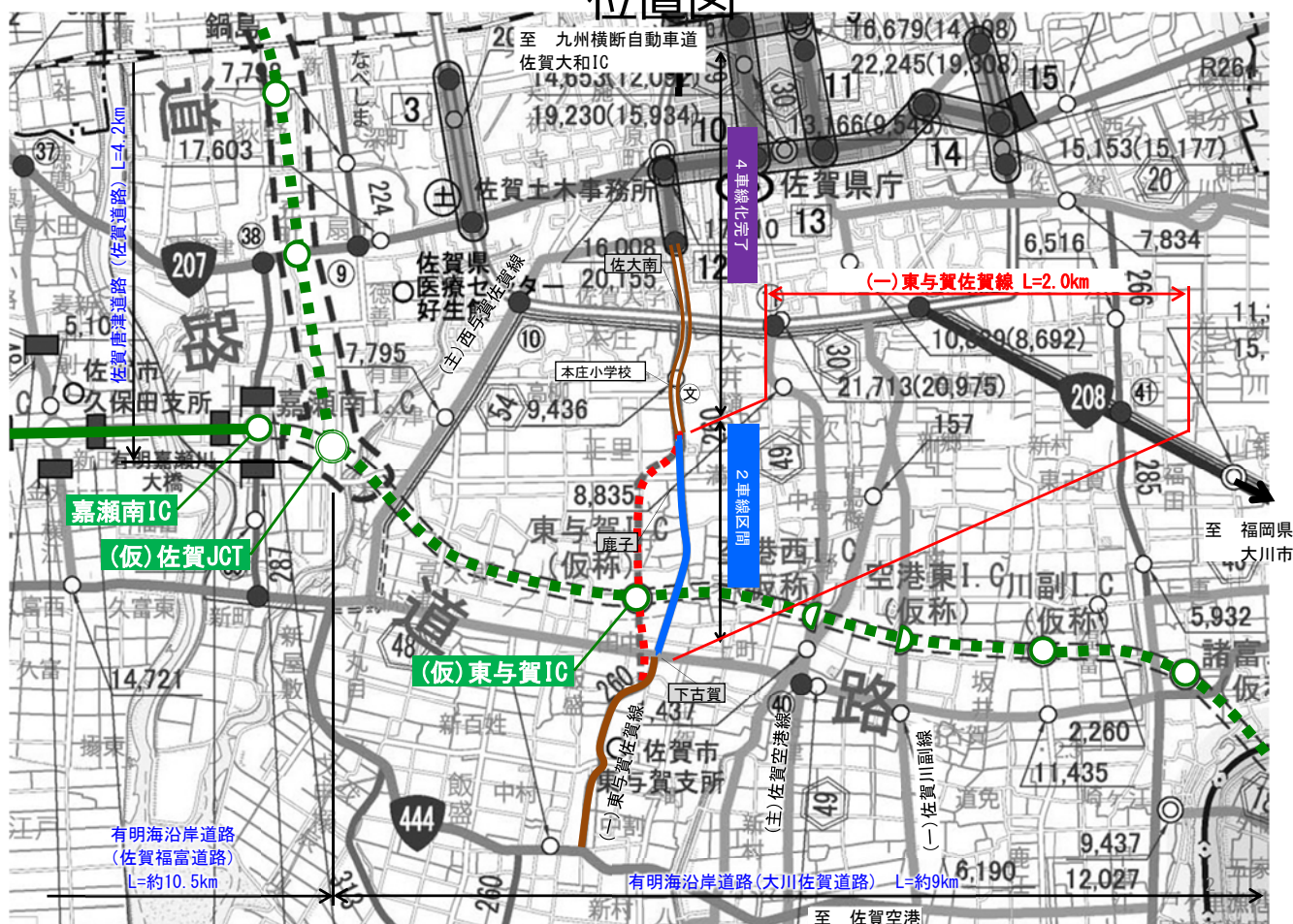
路線名：一般県道 東与賀佐賀線(本庄工区)

事業名：道路整備交付金事業

事業地：佐賀市与賀町下古賀～本庄町鹿子

(社会経済情勢の急激な変化)

## 位置図



# 地域高規格道路ICアクセス道路補助事業への移行

## ○補助事業への移行理由

- 平成28年度に地域高規格道路の整備と併せて行われる、ICへのアクセス道路の整備に対し、集中的な支援を行うため、新たな個別補助制度が創設された。
- 東与賀佐賀線（本庄工区）は、平成24年度から交付金事業で進めてきたが、個別補助に移行することで計画的な事業進捗を図るための確実な予算を確保する。

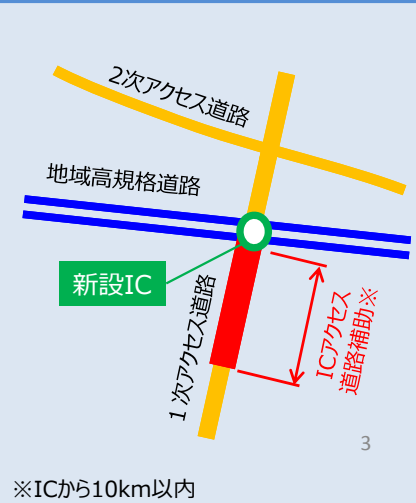
## ○補助事業の採択要件

- ① 地域高規格道路のICへの1次アクセス道路であること。
- ② 地域高規格道路のICが新設ICであること。
- ③ 地域高規格道路が事業化されていること。

## ○採択される場合の事業評価への必要な対応

- ① 国のマニュアル※1に基づくB/Cの算出
  - ② 事業評価監視委員会の意見を聴く
  - ③ 評価結果の公表
- ※1 費用便益マニュアル（平成20年11月）

## 1次ICアクセス道路の概念図



## 事業目的

幅員狭小で  
車両通行に支障



歩道が無く  
歩行者が危険



バイパス（歩道含む）整備により

交通の円滑化、通学者の安全性向上

# 事業概要

- 全体事業費： 50.2 億円
- 工 期：平成23年度～平成34年度
- 全体延長：L = 2.0 km
- 事業内容：改良工 L = 2.0 km
  - 函渠工 N = 18基
  - 用地買収 A = 45,800 m<sup>2</sup>
  - 家屋補償 N = 8戸

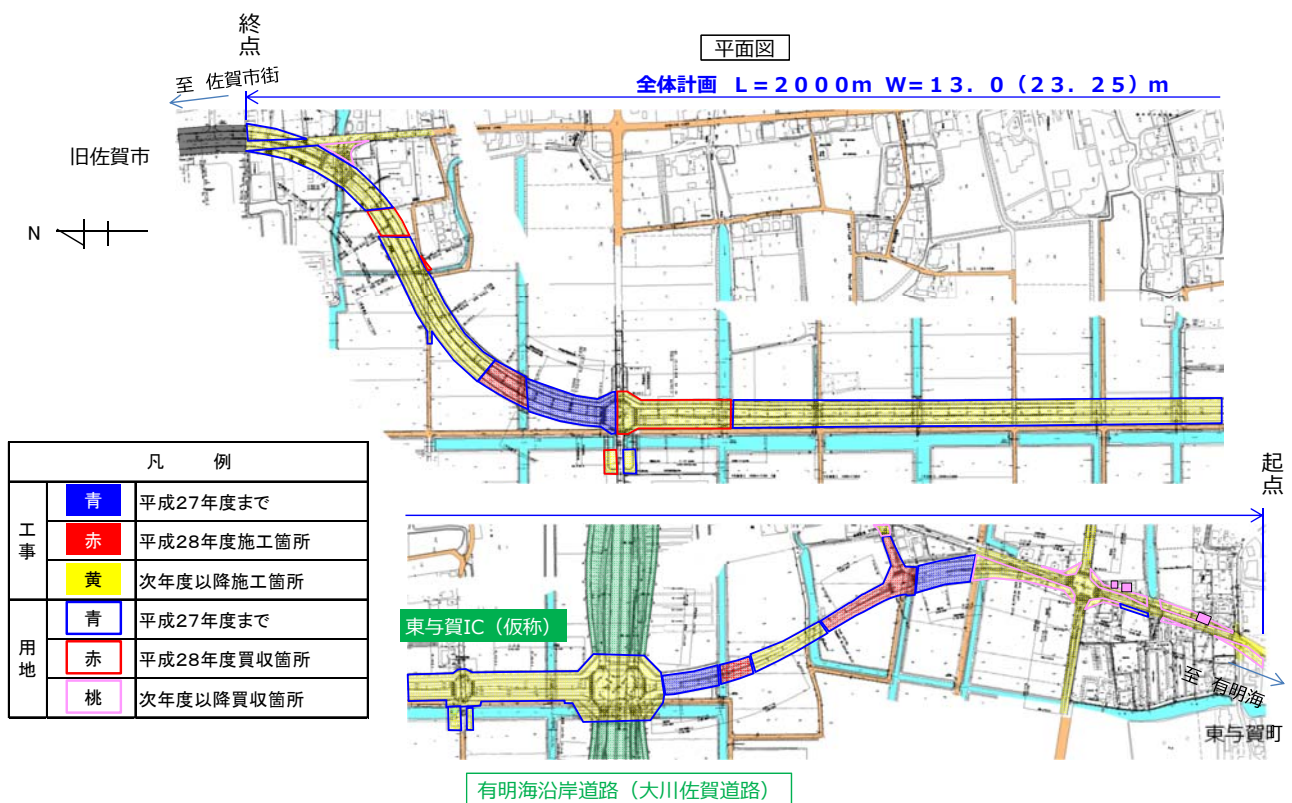
## 事業の進捗状況

	平成27年度まで	平成28年度	平成29年度以降
事業費 (億円)	9.2	3.7	37.3
進捗率 (%)	17.9	25.3	100.0
用地進捗率※ (%)	80.5	89.0	100.0

※面積ベース

5

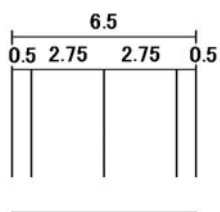
## 一般県道 東与賀佐賀線 平面図



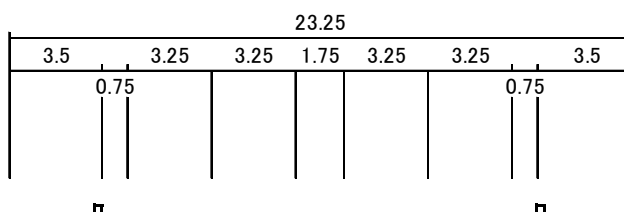
6

# 一般県道 東与賀佐賀線 横断図

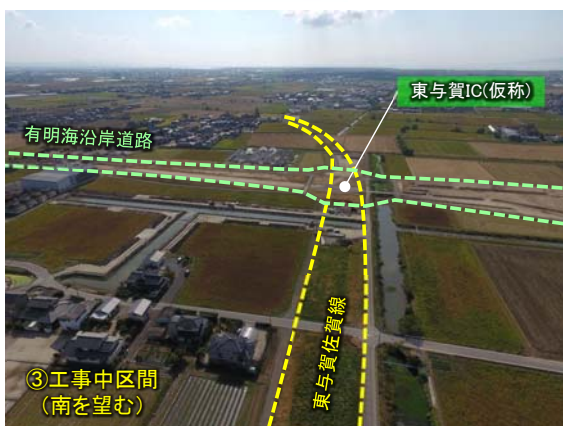
現況(現道部)



計画(バイパス部)



## 平成28年 現地状況



## 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 平成28年度に地域高規格道路の整備と併せて行われる、ICへのアクセス道路の整備に対し、集中的な支援を行うため、新たな個別補助制度が創設された。
- 平成27年度に県道西与賀佐賀線（与賀町～佐賀大学前交差点）の4車線化を完了した。

※当事業区間が九州横断自動車道 佐賀大和ICと有明海沿岸道路 東与賀IC（仮称）を結ぶ区間で唯一の2車線区間として残る。



## 費用対効果の要因の変化

- 事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。

$$\text{費用便益比 (B/C)} = 177.5 / 44.6 = 3.98$$

### 【便益】

走行時間短縮便益 =	158.2	億円
走行経費縮小便益 =	12.9	億円
交通事故減少便益 =	6.4	億円
合計	177.5	億円

### 【費用】

事業費 =	42.9	億円
維持管理費 =	1.7	億円
合計	44.6	億円

※基準年（平成28年度）における現在価値

## コスト縮減や代替案等の可能性

### (コスト縮減)

- 本工区は、全線軟弱地盤上に構築することとなるため、地盤特性を的確に把握し効率的な軟弱地盤対策工法を選定しコスト縮減を図る。
- 工事で発生する残土を盛土等に流用する。

### (代替案の検討)

- 特になし

11

## 対応方針（事業課案）

- 当該事業箇所はバイパスによる整備であるため、整備効果を発現するためには、事業の継続が必要である。
- 当該箇所の事業の必要性に変化がなく、交通の円滑化と交通安全を図るため、事業を継続したい。

12